

内水面研究室を本所に集約しました

令和2年3月31日をもちまして津山市にある内水面研究室は、4月1日から瀬戸内市牛窓町の水産研究所(本所)に業務を集約し、新たに「海面・内水面増殖研究室」として組織体制を再編整備しました(図1)。

昭和57年8月に前身の水産試験場魚病指導センターが設立されて以来、約37年間に渡り、主に県北の魚類養殖業者を対象に魚病に関する予防、診断、治療等の指導や養殖技術指導を行い、内水面漁業の振興を図ってきました。また、平成22年度からは農林水産総合センター水産研究所内水面研究室に改組され、これまでの業務の他にアユやモクズガニ等の調査研究や河川環境調査等の業務も担ってきました。

昨今、県全体の施策として、施設機能の確保を前提としつつ統廃合等の一層の推進が提言されています。そのような中、近年、内水面研究室では施設や機器の老朽化から、魚病診断や研究業務に支障が生じ、今後、現状のサービス維持が困難となる恐れがありました。そこで、より新しい機材を整備し、魚病診断を専門に行う魚類防疫士が複

数名在籍する本所へ集約することで診断精度の向上が図れると考えました。また、内水面関連の調査研究について、他の研究室と横断的に連携することにより、効率的な人員配置が可能となる等の理由から今回、集約化の運びとなりました。

内水面関係の調査研究業務が県南に移転したことにより、県北の内水面漁業・養殖業者の方々にはご不便を感じることをと思いますが、今後もこれまで通り、巡回指導や魚病診断等のサービスは維持して参りますので、魚の調子が悪い等何かお困り事がございましたらお気軽にご連絡していただければ幸いです。

(海面・内水面増殖研究室：泉川)



図1 内水面研究室の集約化